

—イザヤ2章・1-5、ローマ13章・11~14a、マタイ24章・37-24—

(そのとき、イエスは弟子たちに言われた。)
「人の子が来るのは、ノアの時と同じである。洪水になる前は、ノアが箱舟に入るその日まで、人々は食べたり飲んだり、めとったり嫁いだりしていた。そして、洪水が襲って来て一人残らずさうまで、何も気がつかなかった。人の子が来る場合も、このようである。そのとき、畑に二人の男がいれば、一人は連れて行かれ、もう一人は残される。二人の女が臼をひいていれば、一人は連れて行かれ、もう一人は残される。だから、目を覚ましていなさい。いつの日、自分の主が帰って来られるのか、あなたがたには分からないからである。このことをわきまえていなさい。家の主人は、泥棒が夜のいつごろやって来るかを知っていたら、目を覚ましていて、みすみす自分の家に押し入れさせはしないだろう。だから、あなたがたも用意していなさい。人の子は思いがけない時に来るからである。」—マタイ24章—

待降節第一主日

「旅立ち」

典礼歴は新年を迎えました。信仰の旅に出かける出発の時です。

かつてモーセが率いた「出エジプトの旅」が主イエスの先導で私たちに始まったのです。いずれ迎える「終わりの時」に、天に備えられた「約束の地」を、この足で踏むことが出来るために出かける旅です。

快適な生活になくてもならなかったものも置き去りにし、行く手を神に委ねてこの旅は時に、荒野が待つ過酷な旅となるでしょう。しかしそれでもこの旅は不毛に終わる意味のない旅ではありません。荒野は神との再会の場であり、神に礼拝を奉げる神の民となる「証し」の場でもあるからです。

この世の生活は、いか

に便利で快適で申し分なくとも、それは、物質主義的な世俗文化で釣り上げようと企んでいるサタンの餌にすぎません。神不在の世は、信仰者が目指すべき安住の地ではないのです。今は、沈没寸前の「タイタニック号」のフロアで遊興に興じている場合ではなく、急ぐべきは、一刻も早いこの船からの脱出であるという「時の識別」です。

後ろを振り向けば、後にした筈のこの世の支配者が追い迫ってくるのを見て恐怖に駆られ、あるいは安逸な昔に戻りたい誘惑に駆られて心が乱れます。

しかし、幼い子供は母親が居れば恐れがないように、この旅には、母であるマリア様の庇護があることを思い出してください。マリア様を母と仰げば怖いものはありません。ちなみに、待降節と

は、マリア様に最もふさわしい季節なのです。

マリア様は、神の前に、無であるご自身を差し出し、聖霊を受けて身ごもった我が子を世に提供なさったお方です。私たちは、このマリア様の子となつて、イエスの兄弟にされるのです。

それゆえ、待降節に母マリア様と一緒に始める私たちの旅は、母と手をつないだ子供のようなワクワクした心で御父の實家に帰っていく旅となることでしょう。

2022年11月27日

主任司祭 昌川信雄

